

第十三号

野田市郷土博物館  
市民会館

年報・紀要

2019年度

野田市郷土博物館・市民会館



市民コレクション展  
「日本刀～古刀から現代刀まで～」



市民コレクション展関連事業  
刀剣講演会「日本刀を造る」



市民の文化活動報告展  
「あなたの野田を見つけよう」



市民の文化活動報告展関連事業  
「篆刻を体験してみよう」



呈茶席



子ども体験教室  
「古代のアクセサリー・勾玉をつくろう！」



特別展  
「郷土史へのまなざし～博物館誕生のものがたり～」



特別展  
学芸員による展示解説



寺子屋講座・芸道文化講座  
「凧に魅せられて～世界の中の日本の凧～」



企画展  
「野田に生きた人々 その生活と文化 2020」



クラブフェスタ2020  
発表の部／日本舞踊



市民グループ「室礼サロン たのしい和」による  
市民会館のおひなさま飾りつけ

## はじめに

野田市郷土博物館、野田市市民会館の令和元年度の年報・紀要を刊行いたします。

本年度は、市民参加型企画展として野田市美術刀剣会の方々のご協力を得て、市民の収集するコレクションを紹介する市民コレクション展「日本刀～古刀から現代刀まで～」を開催し、刀や刀装具 90 点余を展示しました。関連事業として実施した「日本刀を造る」「日本刀を研ぎ澄ます」の講演会はいずれも盛況で、展示期間中にはホームページが過去最高の閲覧数を記録するなど、多くの反響を得ました。

市民の文化活動報告展では「あなたの野田を見つけよう」と題して、平成 2 年 4 月から野田市域とその周辺の郷土の歴史、自然、民俗および地誌などの調査・研究を行ってきた野田地方史懇話会の活動の成果を紹介しました。会期中には同会の古文書サークル・拓本サークル・篆刻サークルによる初心者向けの講座も開催され、幅広い年齢層の参加がありました。

特別展「郷土史へのまなざし～博物館誕生のものがたり～」では、野田の文化活動と博物館の設立運動に深くかかわった佐藤眞のキャリアを軸に、開館 60 年を迎える当館の設立に至るまでの動きを紹介しました。ミュージアムトーク「博物館設立よもやま話」では、当時の野田で行われていた発掘調査の様子などを中心に、元当館館長である下津谷達男氏にご講演いただきました。講演録として紀要に収録いたしましたので、どうぞお楽しみください。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和 2 年 2 月 29 日(土)から郷土博物館・市民会館ともに臨時休館となり、年度末にかけて予定されていたミュージアム・コンサートやキャリアデザイン講演会など、多くの事業が中止を余儀なくされました。今後の状況については予断を許さないところですが、いかなる状況においても、地域の博物館としての使命を果たすべく活動を行ってまいります。

関係各位、利用者の皆さまにおかれましては、当館の管理運営と事業について、益々のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

野田市郷土博物館・市民会館  
館長 杉山 一男

## 目 次

|      |   |
|------|---|
| はじめに | 3 |
|------|---|

### 年報

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1 基本方針                | 7  |
| 2 事業                  |    |
| 令和元年度 博物館・市民会館事業カレンダー | 16 |
| 資料収集・保管・整理事業          | 19 |
| 調査研究事業                | 20 |
| 公開事業                  | 21 |
| 展示事業                  | 22 |
| キャリアデザイン事業            | 49 |
| 交流事業                  | 60 |
| 利用者へのサービス事業           | 61 |
| 宣伝・広報事業               | 62 |
| 出版事業                  | 65 |
| 3 データ                 |    |
| 入館者数                  | 68 |
| 受贈図書一覧                | 72 |
| 施設の概要                 | 75 |
| 条例・規則等                | 76 |
| 施設の運営組織               | 85 |
| 4 博物館評価               | 87 |

### 紀要

|                               |         |
|-------------------------------|---------|
| 【講演録】 博物館設立よもやま話              | 97      |
| 下津谷達男                         |         |
| 【寄稿】 オンライン検定システムの開発           | 108     |
| 大澤一秋                          |         |
| 【所蔵資料紹介】                      |         |
| 野田における家相見・中田龍堂の活動—中田龍堂関係資料から— |         |
| 寺内健太郎                         | 121 (一) |

# 年 報



# 1 基本方針



## 1-1 施設沿革

### 野田市郷土博物館



野田市郷土博物館は、昭和34年に開館した千葉県で最初の登録博物館である。

設立にあたっては、昭和23年4月に誕生した野田地方文化団体協議会(文協)の活動が基盤となった。文協は野田町教育委員会に対して、図書館・公民館や博物館の設備拡充の要望書を提出、翌年「郷土博物館建設促進特別委員会」を設け、その後、中根八幡前遺跡の学術調査、万葉歌碑の建設、食生活展覧会の開催など精力的な資料収集や普及活動を行った。これらを経て、昭和29年「野田市郷土博物館設立準備委員会」が発足、市山盛雄氏を委員長に、佐藤眞氏、池松武之亮氏など計10名によって、調査研究、資料収集、啓発活動や博物館建設用地の選定などについて検討された。

博物館の建設は國學院大學の樋口清之氏の指導により、郷土の人を対象として郷土の特性を知らしめるものとする、観光的性格よりも教育的施設に重点を置くなど、郷土の博物館としてふさわしいものであるよう配慮がなされた。昭和31年には野田醤油株式会社から建設資金として1千万円の寄付などもあり、旧茂木佐平治邸の敷地内に建造、昭和34年4月10日皇太子殿下御成婚記念として開館式典が挙行された。建物の設計は京都タワーや日本武道館の建築家として知られる山田守による。

郷土博物館の初期の活動は、市の特色である醤油関連資料および地域の考古・歴史・民俗・生物・鉱物などの資料を収集し、それを展示など教育活動に使うことで郷土の理解をはかろうとするものであった。特に醤油関連資料は、押絵扁額「野田醤油醸造之図」をはじめ醤油醸造の道具類など、開館以来豊富に収集を進めている。調査活動では開館直後に中野台貝塚、昭和40～50年代には野田貝塚、三ツ堀遺跡、東金野井貝塚など100件以上の考古遺跡の発掘が行われた。また、民家「旧花野井家住宅」、国指定史跡の山崎貝塚は学術的価値の高さを認められ、博物館の館外施設として機能した。

展覧会は「野田市今昔展(昭和34年)」、「日本の蝶蛾展(昭和39年)」、「中世の野田展(昭和48年)」、「野田の寺宝展(昭和50年)」、「貝展(昭和57年)」、「下総の牧展(昭和62年)」など、年1回以上の頻度で多彩なテーマで開催されてきたが、平成元年度より予算措置がとられることとなり、更に充実したものとなっている。また、地域の人物にも目を向け、平成7年度特別展「美を見る眼」においては、郷土の油彩画家櫻田精一氏の作品を画家の人物像にも注目して展示し、多くの入館者を得た。平成8年度には、昭和初期に市内小学校で音楽教師をしていた山中直治の直筆の童謡の楽譜などが新たに発見されたことを受け、特別展「よみがえる山中直治 童謡の世界」を実施、さらに生誕90年のコンサートを催すなど、地域での普及にもつなげている。

このように野田の歴史・文化を新たに発掘し、さまざまな側面に光を当てながら、平成18年まで常設展示と年1度の特別展を続けてきた。平成19年度より野田市は指定管理者制度を導入し、市民会館とあわせて、NPO法人野田文化広場が指定管理者として一体的に運営を行ってきた。令和元年度からは野田業務サービス株式会社第二事業部が市民会館・郷土博物館ともに運営を引き継いでいる。

## 野田市市民会館



野田市市民会館は市民の福祉施設として昭和32年に開館した。

元は大正13年頃に建築された野田の醤油醸造家である茂木佐平治氏の邸宅で、木造平屋建棧瓦葺寄棟造りの和風建築である。その後野田醤油株式会社（現キッコーマン株式会社）の所有となり、昭和31年10月に同社の創業40周年記念として郷土博物館建設資金とともに主屋や庭園およそ5,000平方メートルの敷地が市に寄贈された。

開館当初より貸し部屋業務を主としており、公民館や集会施設が少なかった頃から市民の文化活動の拠点として利用されてきた。また、当時は「新生活運動」の一つとして、冠婚葬祭を簡素にするため公民館等で結婚式を行うことが奨励されており、市民会館でも多くの結婚式が行われた。

一方、年月の経過とともに、建物の老朽化や歴史的・文化的観点からの活用方法への転換が叫ばれ、平成5年には市民参加による「野田市市民会館有効利用検討懇談会」が設置された。市内外の類似施設の視察を行い、野田市の歴史・文化・伝統や市民のニーズを踏まえ、まちづくりの中でいかに活用すべきか検討が重ねられ、平成8年に貸し部屋業務のみの運営からの脱却と建築当初の状態に復し、和風建築を生かした管理運営が必要であるとの検討結果報告書が提出された。また、平成9年には同敷地内の茶室「松樹庵」（昭和59年に他所より移築）とともに国の登録有形文化財となったことを受け、保存修理事業の一環として市民会館建物基本調査業務が財団法人文化財建造物保存技術協会に委託され、平成12年に「市民会館建物基本調査結果」を刊行、建造物各部の破損状況と保存上考慮すべき事項が報告されたが、具体的な解決策は見出されず、旧来通りの運営が続けられていた。

しかし、平成19年度より指定管理者制度が導入されることが決まり、同敷地内の郷土博物館との一体的な管理運営がはじまり「市民のキャリアデザインの拠点」としての役割が付与されたことを契機として、大規模な改修工事を年次計画で実施することとなった。老朽化した部分の改修だけでなく、生涯学習施設としての機能を付加するため、貸し部屋として利用していた一室を市民が集い交流する場と博物館学芸員の事務スペースとして改修したほか、歴史的建造物としての価値を活かせるように浴室などかつての生活様式が偲ばれる場所をクリーニング、補修することによって見学できるようにした。

さらに市民会館内に市内のガイドボランティア団体「むらさきの里 野田ガイドの会」のメンバーが駐在することにより、ガイド業務の案内を市民会館で受け付けるなど、野田市内への観光ガイドの拠点としての役割も担っている。平成20年には庭園が県内初の国登録記念物（名勝地関係）となり、平成22年には野田市施行60周年を記念して第68期名人戦七番勝負第3局の、平成25年には合併10周年を記念して第26期竜王戦七番勝負第1局の会場となった。最近ではドラマ等のロケが行われたほか、コスプレ撮影での利用者が増加し、幅広い年齢層によって活用されている。

## 1-2 「市民のキャリアデザインの拠点」としての管理運営開始

平成 19 年度より、野田市は、郷土博物館と市民会館に指定管理者制度を導入し、「市民のキャリアデザインの拠点」として市民の自主的な学習及び調査研究を支援するとともに、生涯学習のための市民相互の交流の場を創出することができるようにした。

前指定管理者による運営を引き継ぐ形で、令和元年度より野田業務サービス株式会社が随意指定された。指定管理者制度導入により、野田市郷土博物館は、これまでの調査研究機能を生かしながら市民が直接参加して学び研究し、交流する場への転換を図っている。また博物館には市民が滞在、交流可能な会議室のような附属施設がないことから、生涯学習機能は併設施設である市民会館を活用することで補うこととし、これが二館の一体的な管理運営の考え方の基盤ともなっている。

ここで言うキャリアデザインとは、家庭、学校、職場、地域など人生のあらゆる場所と時期に、「自分らしい生き方の設計あるいは再設計」のために必要な知識、技術を身につけ、これを実践することをいう。すなわち市民のキャリアデザインでは、生涯学習を下支えとして、市民一人一人が自らの働きを自覚、そして他者を理解し、キャリア(生き方)の設計および再設計をする。そのうえで地域コミュニティの一員としての自覚をもち、コミュニティにおいて自らの役割や責任を果たすことが望まれる(図 1)。

野田市郷土博物館は、この過程を支援することとし、生きがいをもち、責任と自覚をもつ自立的な市民の育成、さらに地域の活性化・まちづくりにつなげていくことを使命と考えている。言い換えれば、まちづくりは「ひとづくり」であり、自立化した市民がコミュニティ活性化の実施主体である。その際、行政は市民と協働しながら、必要な情報や器としての場の提供や人的なサポートを行い、それを市民が活用していく形をとる。

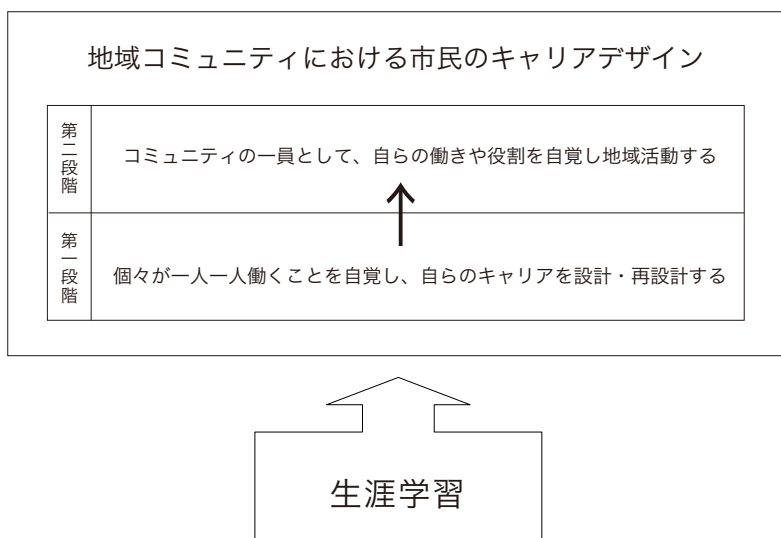


図 1 生涯学習と市民のキャリアデザインの関係図

またこの実現には、地域社会内の各コミュニティ(家族・学校・商工業者・農業者・市民団体・福祉関係者・行政など)を孤立化させることなく、相互に交流させることが必要となる。博物館はさまざまなコミュニティに所属する人たち同士を<文化>によってつなげるハブの役割を担い、市民相互のコミュニケーションの促進につとめる。この場合の<文化>とは、回顧的な歴史や文化ではなく、人の「働き」(仕事・遊び・地域活動・芸道・家庭など)のキャリアデザインの視点に立ち調査研究した成果や、市民の様々なキャリアなどの<文化>をさす。

こうして博物館が「文化の殿堂」から、市民相互のコミュニケーションの推進役に転換することとなる。それにより、これまで交流のなかった異世代や異分野の人たち同士が出会い知り合い、お互いの仕事や生き方、考え方、価値観などを共有し、相互に学びあうことによって、個人の生き方の幅が広がる。各自のキャリアの設計や再設計にも役立ち、地域社会での人々の協働的な仕事や地域活動に発展させることが期待されている。

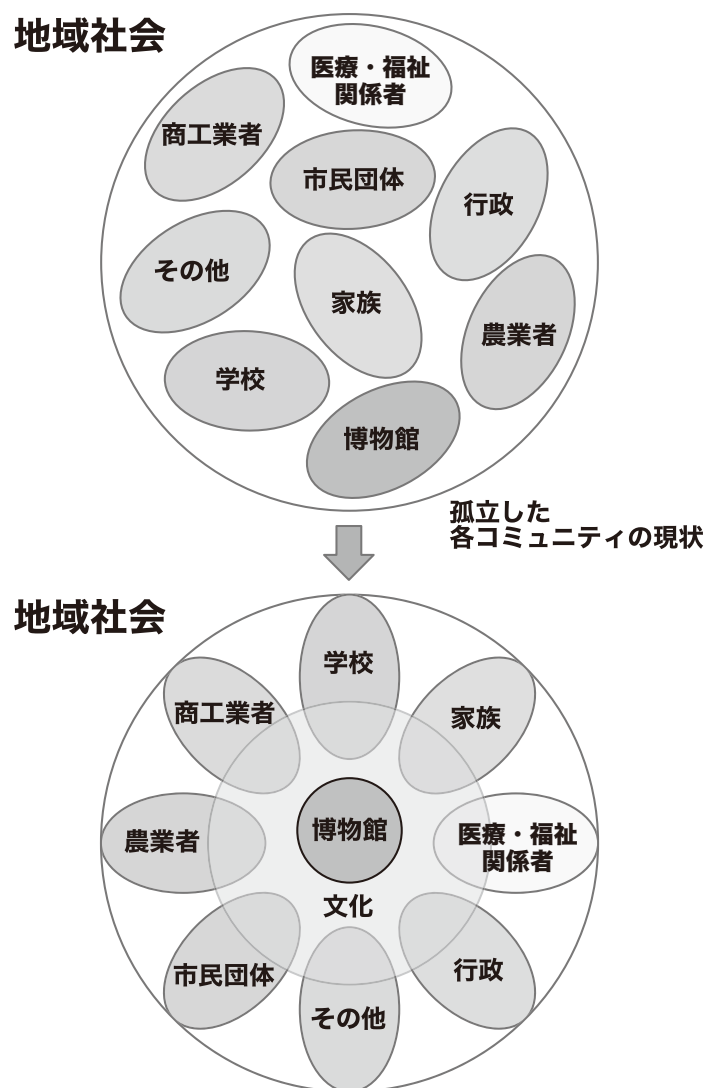


図2 市民のキャリアデザインの拠点の概念図(金山 2007 より)

## 1-3 管理運営の考え方

当館の管理運営の基本的な考え方は以下のとおりである。

- (1) 博物館法、文化財保護法、野田市郷土博物館の設置及び管理に関する条例、野田市市民会館の設置及び管理に関する条例、野田市郷土博物館の設置及び管理に関する条例施行規則、野田市市民会館の設置及び管理に関する条例施行規則その他の関係法規を遵守し、その趣旨を十分に理解した上で管理を行うこと。
- (2) 利用者の利便性の向上、きめ細かいサービスの提供に努めること。
- (3) 利用者の平等利用が確保されること。
- (4) 個人情報の適切な保護が図られていること。
- (5) 施設の効用を最大限に発揮し、利用者のサービス向上を図ること。
- (6) 効率的な管理を行い、経費の節減を図ること。
- (7) 管理に関する業務を一括して委託しないこと。

## 1-4 事業にかかわる基本方針

各種事業の基本方針は以下のとおりである。

なお事業はこれらの基本方針に基づき「資料収集事業」「資料保管事業」「資料整理事業」「調査研究事業」「公開事業」「展示事業」「キャリアデザイン事業」「交流事業」「利用者へのサービス事業」「宣伝・広報事業」「出版事業」を実施している。それぞれの詳細は2. 事業を参照。また、施設の概要、および関連する条例、規則、規程については、3. データに掲載する。

### ●歴史・文化等に係る調査研究、資料の整備及び情報の提供

市民の共有財産である野田の文化財や歴史資料を収集・整理保管、調査研究し、その情報を公開、還元することで、市民が地域の歴史に親近感を持つことを支援し、教養、学術及び文化の向上に寄与します。野田市に数多く残されている遺跡や、歴史的話題を「野田の人々の生活と文化」というテーマのもと、資料収集から活用までを一体的に行っていくことで、市民との協働を進め、市民とともにある施設であり続けます。

### ●特別展・企画展・常設展の実施

博物館の1階は企画展、特別展の会場とします。企画展は市民参加型の展示として市民コレクション展、市民の文化活動報告展、市民公募展、市民アート展を行い、市民同士がお互いを知り合う交流の機会にします。また、野田の通史に関する企画展などを行います。特別展は学芸員の調査研究に基づいて学術的な展示を行います。2階は常設展示とし、「野田に生きた人々の生活と文化」というテーマに基づく野田の通史展示を行い、野田市の歴史を身近に感じてもらうようにします。

### ●キャリアデザインに関する情報収集及び提供

「市民が直接参加しながら学び、研究し交流する場」としての博物館を目指し、生きがいをもち責任と自覚をもつ自立的な市民を育てるため、キャリアデザインを根幹としたまちづくり・ひとづくりを支援します。

様々なキャリアをもつ市民の情報を収集し、研究・発表することで、市民のキャリアデザインを支援します。

### ●キャリアデザインを支援するための事業の実施

市民が自らのキャリアをデザインするのに最も重要な情報は、人との交流や学習を通じて得ることのできる実体験情報であると考え、郷土博物館・市民会館を『交流と学びの場』とし市民のキャリアデザインを支援するための各種の事業を行います。

### ●利用者及び利用団体等のニーズの把握及びその反映

より市民に親しまれ、利用しやすい施設であるために、常に利用者の視点で事業に取り組みます。また、アンケートや意見交換会等により常に的確な市民ニーズを積極的に収集し、その結果を評価・改善に生かしていくことで、市民の満足度の向上に努めます。

市民や学校との協議により、事業の見直しや新規事業計画を模索し、その成果を市民や学校との協働による事業へと生かしていくことで、市民の新たなニーズへ応えていきます。

### ●市民参加の取組

「市民が直接参加しながら学び、研究し交流する場」を目指し、企画展などの各種事業に市民の積極的な参加を促し、学芸員が市民と協働で事業を行います。

### ●自主事業の実施

施設の設置目的を効果的に達成するため、施設を活用して自主事業を実施します。自主事業としては、前指定管理者が取り組んできた寺子屋講座を引き継ぎ、これまで蓄積してきた人的ネットワークを維持、発展させつつ、施設全体の賑わいの創出に努めます。また、コンサートや交流会を積極的に実施し、市民のコミュニケーションを促進します。

## 1-5 ミッション

当館では、これまでの博物館の基礎的機能を継承しながら、市の政策に整合させて新しいミッションを次の三つに整理し、この運営方針にしたがって活動している。

### **地域の文化資源を掘り起こし、活用する博物館**

---

所蔵資料（コレクション）を充実させ、その整理や管理などのコレクション・マネジメントの仕組みを整備して博物館の基礎的な機能を高めます。また、地元の文化資源を調査研究することによって、その成果を学術的な成果に仕立て上げるとともに、情報を発信します。さらに、地域の皆様の生活に役立つように活用をはかります。

### **人やコミュニティが集い交流する博物館**

---

当館は、文化の拠点として、地域で分断的に孤立するさまざまなコミュニティ（家族・学校・商工業者・農業者・市民団体・医療福祉関係者・行政）に所属する人たちの相互のコミュニケーションの推進役をつとめます。

### **人びとの生き方や成長を支援して、キャリアデザインをはかる博物館**

---

近年、これまでの経済成長を続けていた社会で通用してきた生き方を続けることができなくなっています。ビジネス面ばかりでなく、地域社会の人々の生き方も同じように変化しており、少子高齢化によって地域に活気がなくなったり、家庭に引きこもりがちとなる高齢者が増加するなどの問題があります。当館では、地域で生活する人たちの生き方や成長、キャリアデザイン（生き方の設計）を支援します。

